

報告

日本技術士会北海道本部 社会活動委員会(北海道スタンダード研究委員会) “自社の価値”を基軸に考える持続可能な経営とは

吉田聡子様(北海道クリエイティブ株式会社 代表取締役)

奈良 照一

1. はじめに

北海道スタンダード研究委員会(当研究委員会)では、令和5年8月4日(金)、TKP 札幌駅カンファレンスセンターにおいて、約1年4か月ぶりとなる完全対面型での講演会を開催しました。

(参加者：会員21名、会友3名、非会員4名、合計28名 ※講師含まず)

講演会に先立ち、今期から当研究委員会の新代表となった大槻政哉氏から今後の活動の方向性や抱負等についてお話ししました。

(新体制については後述)



写真-1 大槻政哉新代表

2. 講演会について

(1) 講師について

講師は、北海道クリエイティブ株式会社の代表取締役社長の吉田聡子様にお話し、『“自社の価値”を基軸に考える持続可能な経営とは』というテーマでご講演をいただきました。

吉田様は、組織が持つ本質的な価値を発掘し、発

信するプロモーションプロデューサーとして、多くの企業や大学、地域、研究機関等のブランディング・プロモーションを実施されております。ご講演では吉田様が今の仕事をされることになった経緯からはじまり、今後の組織経営に必要な考え方等を大変わかりやすくお話しいただきました。

【講師プロフィール】

札幌市出身。北海道教育大学札幌高特設音楽科(声楽専攻)卒業。大学卒業後、(株)桐光クリエイティブ(現北海道クリエイティブ(株))：本社札幌)入社。経済番組、地域番組ディレクターを経て、組織の本質的な価値を発掘し、発信するプロモーションプロデューサーとして、多くの企業や大学、地域、研究機関等のブランディング・プロモーションを実施。平成14年代表取締役就任。

〈公職〉

内閣府ふるさと活性化支援チームメンバー、北海道観光審議会委員、北海道商工業審議会委員、北海道科学技術審議会委員(現)、北海道労働審議会委員(現)、札幌市行政評価委員、札幌市都市景観審議委員(現)、スイーツ王国さっぽろ推進協議会事務局長(現理事)、札幌商工会議所議員(現)、一般社団法人みらいビジネスラボ代表理事(現)等

(2) 講演の概要

吉田様のコアとなるメッセージは、『目に見えない「本質的な自社の価値」を明らかにすることが、

持続可能な経営にとって必須の時代が来ていること、その中で組織の価値をどのように見つけ、伝え、共有し、共感を生み出して、持続可能な経営へとつなげていくのか』ということでした。

冒頭、吉田様から、「みなさんは、ご自身の組織の価値を一言で言えますか？」という問いかけがありました。皆様はすぐに答えられるでしょうか？

吉田様曰く、『心を動かす「本当の価値」とは何か、自分たちは「どうありたいのか」、これらを追求し、明文化し、共有化することが、企業の未来を変える』ことになるとのことでした。



写真-2 講師の吉田聡子様

そのことを自ら関わってこられたいくつかの事例を交えてご紹介いただきました。

例えば、今や知らない方はいないであろう初音ミク。クリプトン・フューチャー・メディアの伊藤博之社長が売っているのは『音楽ソフト』ではなく、『明日はあなたもヒット作家という未来』とのことで、まさに目から鱗が落ちるお話でした。

保護帽子の製作会社 abonet のお話もありました。世の中には、自立歩行に挑戦しているが転倒する危険性のある人、病気等で突然卒倒する可能性のある人がいます。こうした方々は頭部保護用ヘッドギアがなければ安心して外出できません。abonet が売っているのは、『保護帽子』ではなく、『誰でも安心して楽しく外出できる喜び』だそうです。

そのほかにも剣淵町の農業者が運営する株式会社けんぶち VIVA マルシェの高橋代表の売っている

のは『美味しい野菜』、世に提供するの『(子供たちのために)農業ってカッコいい未来』というお話もありました。滝川町では後継者がおらず廃業した小林ジンギスカンの味を残したいという思いを持った地元有志が集まった結果、その志と人のつながりにより復活したお話(まさしく“有志”ということでしょうか)もありました。

島根県の隠岐島前高校では「日本中の地域課題が集まる島」という弱みを逆にとり「日本の地域課題を解決する人材を育てる最前線のモデルになる！」ことを目指したそうです。その結果、その何もない島の廃校寸前だった高校は、今では離島・中山間地域では異例となる生徒数の倍増を実現し、日本全国、さらには海外からも生徒が集まる高校になった」というお話もありました。

あるスーパーマーケットでは、吉田様が行ったワークショップ後、社員の一人が「今までは“～しない”ことばかりを考えていた、今は“～できる”と思って考えている。うちの会社ってこんなに価値があったのですね」とおっしゃっていたそうです。

あらためてお聞きします。みなさんは、ご自身の組織の「価値」を一言で言えますでしょうか？



写真-3 講演会の様子①

また、今後の人材獲得に際し、自社の価値をSDGsの視点から言葉にすることが持続可能な経営、特に採用活動や事業展開の側面で大変重要というお話もありました。

最近の若者、いわゆるZ世代はまさしくSDGs

ネイティブで、こうしたことに非常に意識が高いそうです。大事なことは「自社の強みと提供価値」を明確にし、社会の課題に結びつけ、「本業」でその課題を解決すること、SDGs 実現への貢献と「組織の収益」と「組織の評判」につなげていくこと、とのことでした。

なお、日本では CSR として本業で得た利益を社会に還元することが根付いています。企業の本業そのものが、SDGs が目指す 17 のゴールのどこかに貢献することを目指すべきであるというお話など、非常に重要なメッセージを大変わかりやすくご説明いただきました。



写真-4 講演会の様子②

最後の話題は、生成 AI についてでした。

生成 AI だけで制作したある企業のプレゼンテーションを見せてくださいました。正直なところ、「まさか生成 AI だけでここまでできるのか・・・」と思うほど、クオリティの高い動画でした。

吉田様は、「だからこそクリエイティブの世界にいる自分たちの役割は、目に見えにくい「本質的な自社の価値」を明らかにすることを目指していく必要がある」と今後の決意を述べられていました。

最初から最後まで情熱的で、パワフルなお話が続き、大変学びのあるあっという間の 2 時間でした。

3. 懇親会について

講演会後には、当研究委員会恒例の立食の懇親会を開催しました。こうした形で行う懇親会は本当に久しぶりで感慨深かったです。

懇親会には吉田様にもご参加いただくことができ、参加者の皆様に活発な意見交換がなされ、とても有意義な場となりました。

(参加者：会員 14 名、会友 2 名、非会員 2 名、合計 18 名 ※講師含まず)

なお、当研究委員会は今期から運営体制が変わっております(今期体制は後述)。懇親会では、これまで運営の中心を担ってきた前代表の天沼宇雄特別顧問、前副代表の正岡久明顧問、前副代表の丹治和博顧問から、ご挨拶をいただいております。



写真-5 前代表の天沼宇雄特別顧問



写真-6 前副代表の正岡久明顧問



写真-7 前副代表の丹治和博顧問



写真-8 懇親会の様子①



写真-9 懇親会の様子②

懇親会の最後は、株式会社タナカコンサルタント代表取締役社長の田中雄太氏にご挨拶いただきました。(田中様、無茶ぶりだったかもしれませんが、ありがとうございました！)



写真-10 田中雄太様による閉会挨拶

4. おわりに

当研究委員会は、北海道に住む我々“北海道人”が、北海道らしさ・北海道人の考え方・気質など北海道そのものを探求し、その上で“北海道のあるべき姿”、“北海道の自立”、“北海道の役割”などについて幅広い分野で議論を交わしながら“北海道が元気になる”様々な提案を道内外に、そして未来に向けて発信していくことを目指し活動しております。

今回の講演会で学んだ「自社の価値と持続可能経営」という視点も取り入れて、引き続き“北海道が元気になる”ための提案を行うために活動して参ります。

最後に、お忙しい中、大変学びにある貴重なお話をいただいた講師の吉田様に対し、この紙面を借りてあらためてお礼申し上げます。

【当研究委員会の運営体制】

前述しましたが、当研究委員会は運営体制が変わりました。今後は次のメンバーが運営いたします。

代表	大槻 政哉
副代表	樋詰 透
副代表	米川 康
幹事長	奈良 照一
副幹事長	市橋 加代

【当研究委員会のホームページ】

<http://hokkaido-std.com/>

奈良 照一 (なら しょういち)

技術士(建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部
 社会活動委員会
 北海道スタンダード研究委員会
 幹事長
 株式会社ドーコン
 e-mail: sn961@docon.jp

